

**サステナブル・リカバリーを実現し、
世界をリードする国際金融都市へ**

**東京都政策企画局
戦略事業部**

「国際金融都市・東京」構想 改訂のポイント

「国際金融都市・東京」構想 (2017年11月策定)

金融関連プレイヤー（企業・人材）の集積を主眼に施策展開

- ①魅力的なビジネス面/生活面の環境整備、
- ②東京市場に参加するプレイヤーの育成、
- ③金融による社会的課題への貢献

国際金融を巡る激しい環境変化を踏まえ

「グリーン」と「デジタル」を基軸として、内容を刷新

「国際金融都市・東京」構想 2.0

Green

1 社会課題の解決に貢献する
分厚い金融市場の構築
Tokyo Green Finance Initiative
(TGFI) の推進

Digital

2 フィンテックの活用等による
金融のデジタルイゼーション

Player

3 資産運用業者をはじめとする多様な
金融関連プレイヤーの集積

プロモーションを強かに推進

Promotion

サステナブル・リカバリーを実現し、世界をリードする国際金融都市へ

「国際金融都市・東京」構想2.0 エグゼクティブサマリー

<金融情勢の変化>

アジア、欧州
の情勢変動

グリーンファイ
ナンスへの注目

新型コロナ
ウイルスの蔓延

デジタルライゼー
ションの進展

サステナブル・リカバリーを実現し、 世界をリードする国際金融都市へ

- 膨大な国内資金需要や資金供給力、企業や事業の集積を背景とした「**実経済バック型**」を志向

<東京の強み>

個人金融資産
約1,900兆円

GDP世界3位
多様な投資先

世界屈指の
東京証券取引所

都市総合力
世界3位

Promotion

国やFinCity.Tokyo (FCT) など関係者との連携により、各施策を強力に推進

1

社会課題の解決に貢献する分厚い
金融市場の構築

Tokyo Green Finance Initiative (TGFI) の推進

(1) グリーンファイナンス市場の発展 **Green**

- ・企業のESGの取組に関する情報プラットフォーム整備
- ・発行体に対する外部評価の取得費用支援

(2) グリーンファイナンスにおける参加プレイヤーの裾野拡大

- ・中小企業向けグリーンローンの活性化
- ・つみたてNISA等を通じた個人投資家の取り込み

(3) 環境施策・環境技術の情報発信とESG人材の育成

- ・脱炭素化に向けたプロジェクトの海外への発信
- ・サステナブルファイナンスを担う高度人材の誘致・育成

2

フィンテックの活用等による
金融のデジタルイノベーション

(1) フィンテック企業の誘致・創業・成長支援 **Digital**

- ・東京進出にかかる初期費用等を支援
- ・国内企業との交流促進によるビジネス機会創出

(2) 資金の繋ぎ手のデジタル化促進

- ・デジタルで完結する事業環境の整備
- ・都出資ファンドを通じた新たなサービス創出の促進

(3) キャッシュレス化の推進

- ・都内のキャッシュレス比率向上に向けた施策展開
- ・ブロックチェーン等新たな技術の活用に向けた検討

3

資産運用業者をはじめとする多様な
金融関連プレイヤーの集積

(1) 資産運用業者等の誘致推進 **Player**

- ・税制や規制の見直し等による、魅力的なビジネス環境、生活環境整備

(2) 資産運用業者の創業・成長支援

- ・新興資産運用業者育成プログラム(EMP)の推進

(3) 金融系人材の育成・金融リテラシーの向上

- ・大学と連携した高度人材育成プログラムの推進
- ・セミナー等を通じた都民の金融リテラシーの向上 2

社会的課題の解決に貢献する分厚い金融市場の構築 ～TGFIの推進～

- 環境（E）、社会（S）、ガバナンス（G）からなるESGは、今後の社会や産業の姿を大きく変える「**ゲームチェンジャー**」となり得る
- 気候変動に対する消費者や投資家の関心の高まりを受け、企業は「**付加価値創造の場**」を**選ぶ**傾向を強めており、東京を世界から選ばれる**グリーンシティへと進化**させていく必要
- 国際金融都市としてのプレゼンス向上には、脱炭素化に向けたプロジェクトに円滑に資金を供給する**グリーンファイナンス**や、**脱炭素化への移行（トランジション）を支えるファイナンスの発展が重要**

➤ **東京のグリーンファイナンス発展に向けた戦略的な取組である「Tokyo Green Finance Initiative(TGFI)」を強力に推進**することで、東京から「環境」と「経済」の好循環を生み出し、「都市システム」と「金融システム」のグリーン化を同時並行的に進める

「構想2.0」 TGFIIの推進に向けた具体的施策①

(1) グリーンファイナンス市場の発展

① ESGに関する企業の取組等の情報プラットフォーム整備

- ・都が保有する企業のESG関連情報等の開示推進

② グリーンボンド発行体への支援

- ・グリーンボンドの発行等に必要となる外部レビュー費用等に対する支援実施

③ アンカー発行体、投資家としての市場牽引

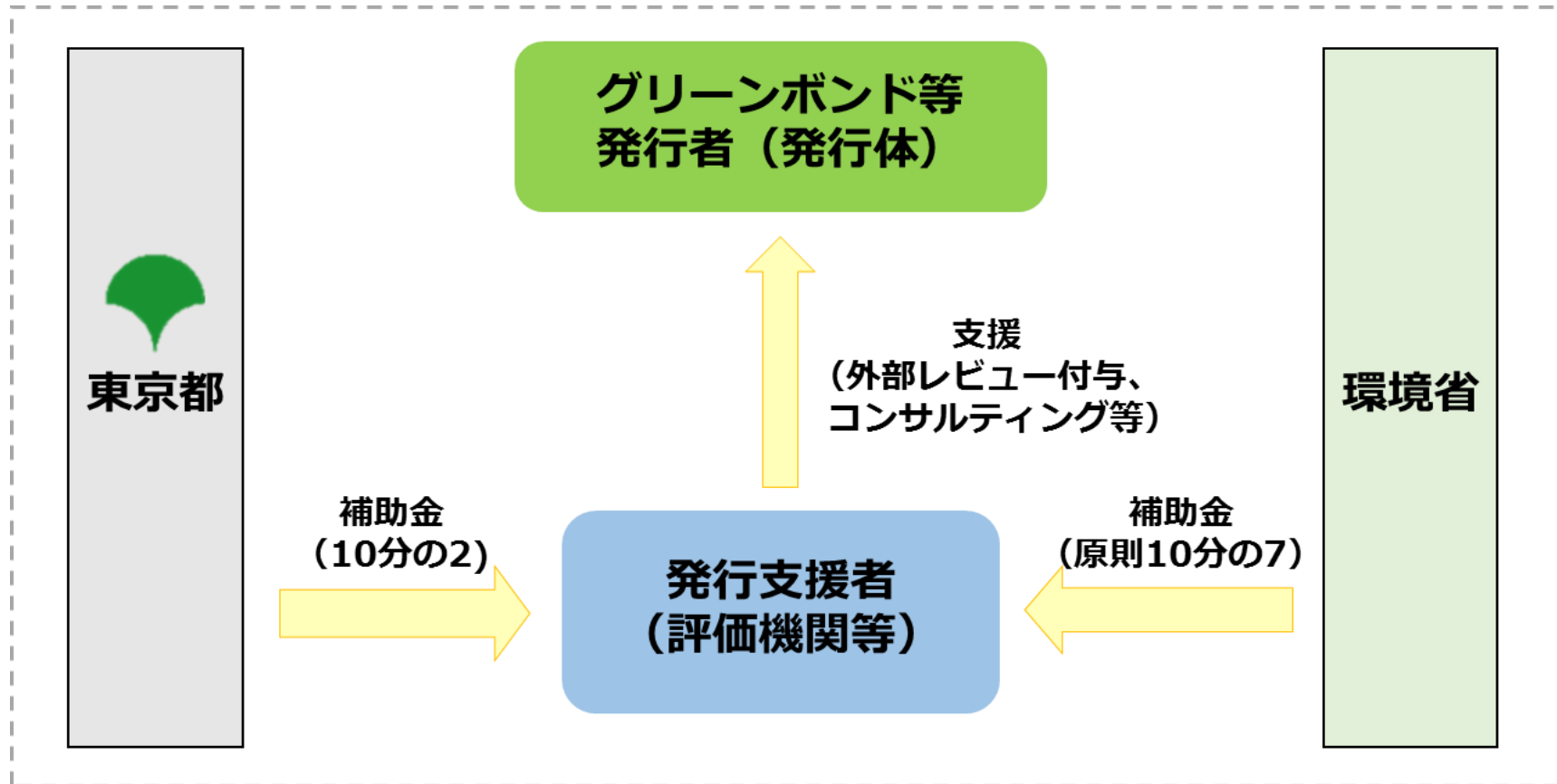
- ・グリーンボンド発行継続によるプレゼンスの維持・向上、他自治体への発行ノウハウ共有



国内で公募されたグリーンボンド発行金額 2025年: 1.6兆円 2030年: 3兆円
日本の機関投資家を通じたサステナブル投資残高の世界比 2025年: 10% 2030年: 15%

「グリーンボンド発行体への支援」

グリーンボンド等を発行しようとする事業者等に対し、
経費の一部を補助金で支援



- 令和3年10月より募集開始
- 環境省補助金
(原則補助率10分の7)
と合わせ、発行支援に係る
経費の自己負担は10分の1

「東京グリーンボンド」の発行

- ・日本の自治体初となるグリーンボンドを発行し、自治体のESG債発行をリード
（令和3年度からは新たにソーシャルボンドも発行）
- ・国内ESG市場の活性化と金融分野からのSDGs実現を東京都が強力に後押し

	年度	機関投資家向け		個人向け	合計発行額	(参考①) 国内で公募された グリーンボンド発行額	(参考②) 他自治体の発行例
		発行額	応募倍率	発行額			
グリーン ボンド	H29年度	100億円	4.1倍	100億円	200億円	660億円	—
	H30年度	100億円	4.3倍	100億円	200億円	2,363億円	—
	R1年度	100億円	6.9倍	100億円	200億円	5,650億円	—
	R2年度	200億円	8.0倍	100億円	300億円	7,754億円	長野県：50億円 神奈川県：50億円
	R3年度	300億円	8.9倍	100億円	400億円	3,595億円 (6月起債分まで)	長野県：100億円 神奈川県：100億円 川崎市：50億円
ソーシャル ボンド	R3年度	300億円※	11.4倍	—	300億円※		

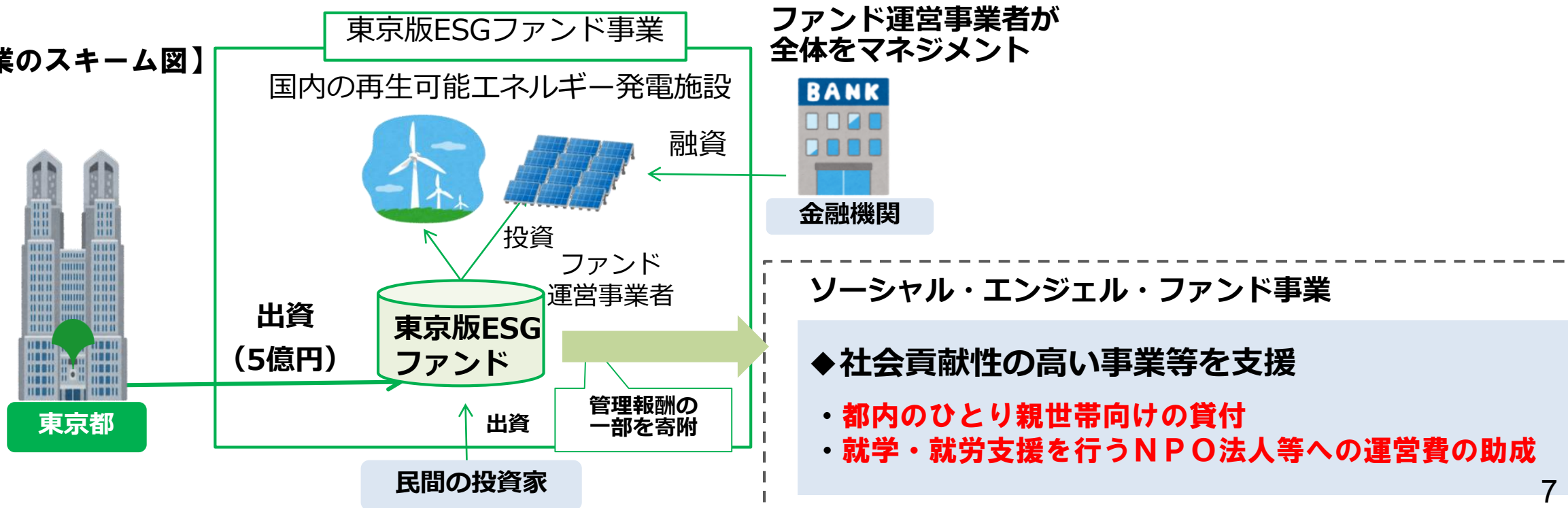
※R3年11月時点の発行額（R3年度内に追加発行の予定）

【出典】参考①：日本証券業協会「SDGs債の発行状況」、参考②：環境省ホームページ「グリーンファイナンスポータル」

「東京版ESGファンドの創設」

- ・官民連携ファンドのスキームを用いて、再生可能エネルギー発電所国内の再生可能エネルギー発電施設に分散投資を行う
- ・管理報酬の一部により、社会貢献性の高い事業等を支援

【本事業のスキーム図】



「サステナブルエネルギーファンドの創設」

官民連携ファンドのスキームを用いて、再生可能エネルギー発電所や
クリーンエネルギー拠点等の整備を推進

プロジェクト内容

都出資 10 億円 (最大)

東京都

民間

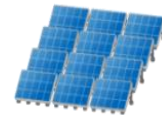
サステナブル
エネルギー
ファンド

運営事業者 (無限責任組合員)

投融资

再生可能エネルギー発電所

(例)



クリーンエネルギー拠点

(例)



【予定】 令和3年12月頃：運営事業者選定 → 令和4年2月頃：ファンド契約の締結 (=ファンドの創設)

「構想2.0」 TGFIIの推進に向けた具体的施策②

(2) グリーンファイナンスにおける参加プレイヤーの裾野拡大

① グリーンファイナンス関連の資産運用業者等の誘致・育成

- ・都内で事業開始する際に要する投資（オフィス賃料等）を重点的に支援

② 中小企業におけるグリーンファイナンスの活性化

- ・グリーンローン利用促進に向けた地域金融機関等との連携、中小企業のトランジション支援

③ 個人投資家の取り込み

- ・つみたてNISAの活用などESG投資に参入しやすい環境整備

➡ グリーンファイナンスに関心ありと回答した都民の比率 2025年: 30% 2030年: 50%

グリーンファイナンスを担う金融系外国企業を支援

グリーンファイナンスを担う金融系外国企業が、東京で事業をスタートする際に必要な新たな投資に対して、重点的・集中的に支援

対象経費

- 人件費
- 人材採用経費
- オフィス賃料
- 器具設備購入費用
- 専門機関コンサルティング費用

補助規模

- 初年度最大5,000万円
- 補助率10/10 ※
- 補助は原則4年間※
※補助率は段階的に逡減

【令和3年度スケジュール（予定）】

令和3年12月 支援対象企業選定 → 令和3年12月下旬 支援開始



(3) 環境施策・環境技術の情報発信とESG人材の育成

① 東京都の先進的な環境施策の推進、プロジェクトの発信

- ・「サステナブル・リカバリー」につながるプロジェクトの積極的展開によるグリーン資金需要の創出
- ・都の海外窓口や東京国際金融機構（FinCity.Tokyo）等との連携による海外向け情報発信の強化

② 優れた環境技術を有する企業情報の発信、技術開発の促進

- ・グリーンテックの見本市や展示会などの開催を通じた情報発信
- ・「スタートアップ・エコシステム 東京コンソーシアム」と連携した成長支援

③ サステナブルファイナンスの担い手となる高度人材の誘致・育成

- ・高度金融専門人材にとっての生活環境等の充実
- ・都内の大学・研究機関等と連携した、サステナブルファイナンスの視点も持った高度金融専門人材の育成

グリーンファイナンスセミナー2021の開催について

東京都と駐日英国大使館の共催により、グリーンファイナンスセミナーを開催
 今回で4回目の本セミナーでは、近年急速に拡大しているグリーンファイナンスについて東京・ロンドン両都市の最新動向や取組などを紹介

開催日時：2021年12月10日（金曜日） 午後5時～（オンライン配信）

項目	主な登壇者			
開会挨拶	駐日英国大使 ジュリア・ロングボトム			
基調講演	シティ・オブ・ロンドン ロード・メイヤー ヴィンセント・キーヴェニー			
対談 「今後のグリーンファイナンスにおける日英協力の方向性」	<英国側> 英国外務省気候変動特別代表 ニック・ブリッジ		<東京側> 金融庁チーフ・サステナブルファイナンス・オフィサー 池田 賢志	
金融ラウンドテーブル 「グリーンファイナンスにおける最新の取組と今後の展望について」	<英国側>		<東京側>	
	シティ・オブ・ロンドン ロードメイヤー	ヴィンセント・キーヴェニー	東京都知事	小池 百合子
	駐日英国大使	ジュリア・ロングボトム	東京都副知事	宮坂 学
	英国金融行為規制機構ESG部門長	サシャ・サダン	一般社団法人東京国際金融機構 会長	中曾 宏
	FTSE Russell CEO	アーン・スタール	フューチャー株式会社 取締役	山岡 浩巳
	ブルーベイ・アセット・マネジメント CEO	エリック・ガース	株式会社東京証券取引所 取締役専務執行役員	小沼 泰之
			ニッセイアセットマネジメント 代表取締役社長	大関 洋
閉会挨拶	副知事 宮坂 学			

東京サステナブル・ファイナンス・ウィーク (TSFW)

都がサステナブルファイナンス等に関するイベントを開催し、他の関連イベントとも連携を図り、一大イベント・ウィークとして発信



10/14 (Thu)	10/15 (Fri)	10/17 (Sun)	10/18 (Mon)	10/19 (Tue)	10/20 (Wed)	10/21 (Thu)	10/22 (Fri)	10/23 (Sat)

KPIを設定し、達成度を検証しつつ取組を深化

分野	項目	2020(参考)	2025	2030
① TGFI の推進	日本の機関投資家等を通じたサステナブル投資残高の世界全体に占める割合	8.1%	10%	15%
	国内で公募されたグリーンボンド発行金額	0.8兆円	1.6兆円	3兆円
	都民のグリーンファイナンスへの関心に関するアンケート調査結果	11.5% (民間調査・全国)	30%	50%
② 金融のデジタルイノベーション	都内フィンテック企業数	94社	200社	400社
	都内キャッシュレス決済比率	21.6% (2014)	50%	80%
③ プレーヤー集積	都内資産運用業者数	374社	600社	900社
	都内フィンテック企業数 (再掲)	94社	200社	400社
金融活性化の都内産業への波及効果	都内GDPの押し上げ効果	108兆円 (2019)	5兆円 押し上げ	10兆円 押し上げ

A nighttime cityscape featuring several illuminated skyscrapers. The buildings are lit up with various colors, primarily blues and whites, against a dark sky. The perspective is from a low angle, looking up at the towers.

今こそ、ラストチャンス

**熾烈な都市間競争に打ち勝てるよう
サステナブル・リカバリーを実現し、
世界をリードする国際金融都市へ**